

小学校

ドキドキした しよどろび文かさい

二年B組 寺西 花音

わたしは、十一月十日、しよどろび文かさいでげきをしました。はじめて、だい本なしでれんしゅうした時には、セリフがあつていかしんばいでした。中野先生に、「じようず。」と言われた時には、すぐうれしかったです。おめん作りでは、切るところがむずかしかったです。目のほるいちがすこしむずかかったけど、るみちゃんにおしえてもらいました。

本ばんの前の日のさいごのれんしゅうでは、うさみ先生に、「うたが上手だね。」と言われて、本ばんがたのしみになりました。おかあさんに、「たのしみ。」と言われてうれしかったです。

本ばんの日は、学校にきてからドキドキしました。おかあさんを見つけると、もっとドキドキしました。うたの時、きんちようしたけど、がんばつてうたいました。自分のばんになつたら、きんちようしたけどセリフをいいおわたつたら、すつきりしました。さいごのうたは、えがおでできたと思います。

家に帰ったら、ビデオをみんなで見たいほめてもらいました。

来年も、げきでじようずにはつてようしたいです。

しよどろび文かさい

三年B組 瀧本 紗由季

わたしたち三年生は、社会でいろいろな場所へ行ったので、それをげきにして発表しました。わたしのやくは木さい港に見学に行つたせいとやくでした。

わたしががんばつたことは、二つあります。一つはせりふをおぼえることです。せりふをおぼえることはたいへんでしたが、学校の練習時間ですししょうけんめいおぼえました。もう一つは、大きな声を出すことです。先生に、「大きな声をださない。」と言われたので、大きな声を出すためにたくさん練習しました。

本番では、きんちようしました。が、うまくだきました。お客さんが、はくしゆしてくれてうれしそうだったのでも、わたしもうれしかったです。



みんなで育てたきく

四年B組 服部 環

わたしたち四年生は、みんなでがんばつてきれいなきくをさかせるために、きく作りをしました。きく作りのやり方は名人の村上さんと平野さんに教えていただきました。まずは植木ばちに土とひりようを入れました。支柱を立てることもしました。きく作りの先生に手伝ってもらいながら最初のじゆんびをしました。

成長してからは、のびたきくをはりがねでしばつて支柱を伸ばしました。水こけという物をていねいに入れました。わき芽もしっかりと取りました。きれいなきくをさかせるためには、毎日手入れが必要で大変でした。

十月には花を支える「輪台」という物をつけて、はりがねをつけました。みんな協力してきれいな花をさかせることができました。いいです。今まで大きく作りのことをいろいろ教えてくださつたきく作りの先生、ありがとうございます。



中学校

最後の駅伝を終えて

九年A組 立松 昇剛

「二区区間賞をとる。」この目標を達成するために夏から練習してきました。去年の一区が八分台で二区にタスキを渡していることから、八分台で走ることも目標の一つにしました。この二つの目標は練習をするとき、常に意識していました。

去年は二人の先輩の後ろ姿を見て、その姿に憧れ、追いつこうと思ひ努力しました。練習のとき、いつも前を走っている先輩を目標にして走っていたから今の僕があると思います。二人の先輩にはすごく感謝しています。去年の大会で二人の先輩のうちの一人が区間賞をとりました。そのときから、「来年は自分が区間賞をとる。」ということを思いました。

そして、今年も大会が近づき、学校の外周を走つたとき、初めて八分台で走ることができました。その時はすごく嬉しかったのと、これはいけると思いました。しかし、現地の試走では、なかなかタイムが出ず、ずっと悔しい思いを



しました。最後の試走でようやく良いタイムが出ましたが、八分台には届きませんでした。

本番当日、僕はスタートした数秒後に転んでしまい、そのときに左腕の感覚がなくなり焦りました。それでも、意地と目標達成に向けて全力を尽くしました。結果は、区間四位で区間賞はとれず、タイムは最後の試走と同じで自己ベストも出ませんでした。すごく悔しかったです。「あの時転ばなければ」と何度も思っています。この悔しさを忘れず高校で頑張っていく予定です。この駅伝部のメンバーと共に練習ができてよかったです。ありがとうございます。



駅伝大会を終えて

八年A組 伊藤 雅

私は、駅伝大会に参加して自己ベストと二十秒短縮することができました。とても悔しかったです。私は去年と同じく一区を走りました。緊張していたけどみ

んなに励まされ走りました。走っているときに、いつも励ましてくれるのが母でした。母は、「ファイト、ファイト。いけるぞ。」「自分のペースで走れば大丈夫。」「雅ならいける。」と励ましてくれました。母の応援だけではなく、先生方、一緒に練習してきた仲間もたくさん応援してくれました。バスケ部は大会の一週間前に西尾張大会があり追い込むことが少ししかできませんでした。だから追い込むことのできる日は、一生懸命頑張りました。けれど、本番で結果が出なかったのは、走り込むのが足りなかったからだと思います。母にも、走り込むのが足りなかったねと言われたので来年はもっと走り込む練習をして、大会に望みたいと思いました。



成長の結果

九年A組 山本 阿志武

自分が駅伝部に入るにいたった理由は、とても浅はかだった。夏休みの早起きのため、夏休みに太

らないためといった今すぐにでも折れそうな動機だった。夏休み前半はそんなふわふわした気分での練習が続いた。なぜこんなことをしているんだろうと、走っているときに何度も考えてしまっていた。だけど練習していく中でその気持ちはどんどん少なくなっていた。いつのまにか前の自分よりもっと速くなりたいという気持ちがふくれ上がっていった。その気持がふくれ上がったせいか、自分の体が成長したおかげなのか、どんどん安定した速さと体力、そして自分の最高の武器となったラストパートを手に入れることができた。今までの自分とは明らかに違うという自信も手に入れることができた。夏休みが明けてからも練習が続きかなりハードに感じたが、自分が成長していることをしっかりと実感できた。今思うと実感できていたからこそ苦しい練習を続けられていたと思う。この練習期間に体のダメージも大幅に増えた。だけど耐えることができた。大会当日も痛みはあったものの過去の自己ベストを越えることぐらいしか考えていなかった。正直すごく緊張した。走っている最中にこれがなになんでも最後まで直の中で言い続けた。ラストの直

線は力をふりしぼって全力のラストパートをかけた。結果、九分十六秒と自分のベストを十八秒もぬりかえることができた。そして六区間で第二位をとることができた。一位と四秒差という近差だったけど後悔はなかった。自分でもこんなに速くなるとは思わなかった。前の自分からでは想像もつかない自分になった。この耐えぬいた期間で得た結果を忘れず、これからの大切な時期にむかっていきたい。



飛島学園 1月の行事予定

1月 6日(金)	始業式	ⓂⓈ
10日(火)	給食開始	ⓂⓈ
18日(水)~19日(木)	学年末テスト(9年)	Ⓢ
25日(水)	2分の1成人式(4年)	Ⓜ
27日(金)・30日(月)・31日(火)	三者懇談(9年)	Ⓢ

